

地区会長からのメッセージ

「意欲溢れる民児協」

東山地区 会長 鈴木 忠秋

昨年末の改選で当地区では新しく11名の方が委員になりました。毎月の定例会での議題や学習会の内容説明で分かりにくい点は補足し、質疑応答の時間を確保しています。8月2週目の2日間、児童クラブへの友愛訪問を再開しました。人形劇「桃太郎さん」等を観て子ども達は興味津々、笑顔一杯でした。まずは1年間、積極的に活動していただくつもりです。委員の皆さん意欲満々です。



「中部地区会長として思うこと！」

中部地区 会長 石隈 厚司

私は昨年の民生・児童委員の改選により4期目になり、図らずも中部民児協の会長職を引き受けることになりました。安城市も少子高齢化が進み、課題も多く、我々民生・児童委員としての役割も大きくなっています。我々の仕事は、各地区のお困りごとを拾い上げ行政につなぐことです。お困りごとを1人で抱え込まないで、民児協の皆で話し合い解決することが大切だと思います。



「肩の力を抜いて活動」

作野地区 会長 小原 治雄

みなさんは、民生・児童委員を頼まれた時の心境はどうでしたか？自分は、25年以上前に当時の町内会長から「そんなに難しい仕事ではないよ」との言葉で、内容もよく理解せずに引き受けて今に至っています。そんな気楽な気持ちでも、周りの人の協力を得ながら成り立つと思っていますので、「肩の力を抜いて」活動しましょう。



「支え合う地域共生社会へ」

中央地区 会長 林 和夫

民生・児童委員の主な活動は、訪問活動や相談活動ですが、地域住民との関わりが多いので、町内会行事やサロン活動、学校行事等に参加し、地域の課題・相談等の情報を得て、同僚委員と相談し、制度活用・専門支援が必要であれば、社協や市役所等の専門機関につなげていきます。



「先輩諸氏の思いをつなぐ」

安祥地区 会長 杉浦 正之

安祥地区は、民生・児童委員の活動強化週間の5月に、対象者全員の戸別訪問をしました。避難行動要支援者には安心キットの点検をさせていただきました。冷蔵庫に入れていない方、記載内容の変更が必要な方もいました。安城市は2004年にこの支援制度を近隣市町に先駆けて始めました。当時「1人も見逃さない」を合言葉にして登録推進に取り組んだ先輩諸氏の思いをつないでいきたいと思ひます。



「見守り活動から学んだこと」

西部地区 会長 長坂 潔子

私が民生・児童委員になってしばらくしてのことです。一人暮らしの方の生存確認で、夜に電気が点いているかどうか確認のため、西部社協の方と2で行きました。電気が点いていてホッとしたことがありました。近所の方からの連絡で、昼間に訪問しても返事も無く姿も無く、夜に確認に行くことにしました。でも、1人では行かない方が良く、社協の方と2で行きました。近所の見守りがあって良かったと感じる出来事でした。



「民生委員として日ごろの思い」

明祥地区 会長 三浦 恵江

社会的孤立や一人暮らし等で多くの問題を抱えている高齢者の方々には、個人情報保護に配慮しつつ、まずは訪問をきっかけにさりげなく手を差し伸べて相談にのり、次に丁寧に諸機関との連携をとって安心して暮らしていけるようにしたいです。そのためには、相手とのつながりの糸を徐々に強くしていくことが大切であり、相談の過程で相手の気持ちの理解を深めることができるように研鑽を積んでいきたいと思ひます。



「委員活動の連携・協働について」

桜井地区 会長 天野 静彦

委員の一斉改選から早や1年が経過しました。新任会長として、委員活動について次の3つを志してまいります。1. 委員の名前と顔を覚え、互いを理解できる関係づくり。2. 委員が自由に話し合える雰囲気づくり。3. 地域住民・自治会（福祉委員会等）、行政、社協等の関係者との交流促進。そして委員・関係者の皆様とともに、限られた時間内で連携・協働を深めてまいります。



第40回 安城市福祉まつり

令和5年10月1日(日)に行われました安城市福祉まつりバザーの収益金 **166,050円**

久しぶりにほとんど縮小なく開催され、コロナ禍以前の賑わいを思い出す、華やかなまつりとなりました。収益は福祉事業に役立てられます。ありがとうございました。

【編集後記】

改選後初めての「民児協あんじょう」発行に当たり、地区会長、部会長、新任の皆様へ決意を寄せていただきました。心より御礼申し上げます。 広報部会一同



民児協 あんじょう

第20号

〈発行・編集〉安城市民生委員・児童委員協議会 広報部会



令和5年10月1日 第40回安城市福祉まつり開催



昨年十二月の一斉改選で私たち二二八名は厚労大臣と愛知県知事から民生・児童委員の委嘱を受けました。日頃より地域の皆様や町内会及び関係機関のご理解とご指導を賜り、心より感謝申し上げます。 新型コロナウイルスの制限解除により、各地区民児協と各専門部会では、事業計画に基づいて充実した活動が展開されています。 孤立や孤独・八〇五やヤングケアラー等の問題は気が付きにくいものです。また、日々の訪問でゴミ出しや買い物など困りごとの相談を受けます。中には隣近所とのトラブルや困窮など荷が重い問題もあります。そういう時こそ民生・児童委員同士の情報共有や関係機関につなぐことを心掛けていきます。 二〇一五年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の基本理念は「一人も取り残さない」ということです。一〇六年前の民生委員制度創設以来の基本精神と同じです。私たちは、「見逃さない、ほっとけない」の精神を大事にして、すべての人々と協力し、明朗で健全な地域社会づくりに努めていきたいと思ひます。

安城市民生委員・児童委員協議会 会長 杉浦 正之

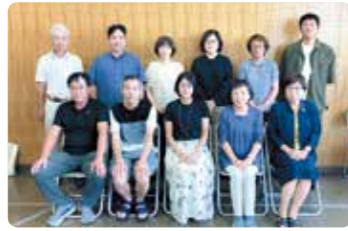


わたしたち、新任民生・児童委員です!

「聞く耳を持つことの大切さ」

東山地区 竹市 洋一

高齢者のお宅を訪問して感じたことは、傾聴の重要性です。傾聴とは、聞き手が話を聞くと、相手の立場、気持ちに共感して聞くこととあります。高齢者の方によっては、同じ話を繰り返す方、自分のヒストリーを延々とされる方もいらっしゃるため、正直聞き流していました。駄目駄目。これからは高齢者の方に寄り添い、気持ち良く話をしていただけるように心掛けます。



「よりそう心で」

中部地区 稲垣 諭見子

民生・児童委員の主任児童委員として、12月から活動を始めました。スクールガードや図書ボランティア、親子ふれあいイベントなど地域の福祉活動をする中で、地域の人たちや子ども達への声かけの大切さを感じています。笑顔で声かけすることから地域に溶けこみたいと思います。そして、心のアンテナを高くして、よりそう心で活動していきたいと思っています。



「子ども達とのふれあい」

作野地区 横山 政子

私が住む篠目町には「篠目ボランティアネットの会」という団体があり、多くの方がボランティア活動をしています。私もその一員として活動する中で、町内会長より主任児童委員のお誘いを受け、引き受けることにしました。コロナで中止になっていた地域のふれあい活動も開催できるようになりました。これからも多くの子ども達とふれあっていきたいです。



「人との出会いを楽しみに」

中央地区 坂口 正弘

民生・児童委員になり、たくさんの人達との出会いがありました。一人暮らしで生き生き生活している人生の先輩、そして、いろいろな福祉関係の仕事をしている人との出会いから、新しい発見がたくさんありました。そんな出会いが、私自身のやる気につながりました。これからも、地域の行事や福祉関係の研修会に参加し、今からの活動に役立てていきたいと思っています。



「地域の福祉活動を担う1人に」

安祥地区 宮宅 ひとみ

民生・児童委員になって、訪問活動以外にも多くの活動があることを知り、心配で不安が募っていました。そんな中で先輩方は笑顔で活動していて、私もすぐにその輪の中に入れていただき、不安が和らぎました。今年7月から公民館喫茶サロンが始まり、立ち上げからも多くのことを学びました。今後も私にできることで地域の福祉活動に関わっていききたいと思います。



「よろしく願いいたします」

西部地区 齋藤 和子

コロナ禍による行動・活動制限によってさまざまな人とのつながりが失われましたが、ようやくマスク生活ではわからなかった表情が見られるようになってきました。年代や立場を超えた地域の方とのつながりを見出すためにも、研修会等に参加し実態の把握や地域の特色に合ったつながり方を学んでいけたらと思います。



「町内会と連携した『見守り活動』」

明祥地区 横山 修

3月までの町内会長時の反省を踏まえ、民生・児童委員としての役割を認識し、町内会との連携不足を改善すべく民生・児童委員と町内会および地域支援者との連携を深め、活動の成果・課題などの情報の共有化を図り、「地域ぐるみの見守り活動」の実現に向けて、多くの皆さんの協力をいただき頑張っていきたいと思います。



「出来ることから一歩ずつ」

桜井地区 林 誠

民生・児童委員という役職は聞いたことがありましたが、いざ自分が就くとなったらどのように活動していけばいいのか分からず戸惑いました。しかし、新任研修や先輩方からの助言などを貰い、少し自信が持てるようになりました。私の担当地区の合言葉の「もれなく、さりげなく、末永く」を旨とし、まずは見守り活動から、地域福祉に貢献したいと思います。



専門部会について

「高齢福祉部会の活動について」

高齢福祉部会 鈴木 桂治

5月8日に新型コロナウイルス感染症が第5類感染症に移行し、高齢福祉部会も本格的に活動できる状況になりました。6月19日に「ハートフルケアセミナー」を、家庭介護を担う人の心構えをテーマに、名古屋の介護支援センターやわらぎ管理者平林竜也氏を講師として開催しました。また、10月25日に地元安城の「安城養護老人ホーム」「特別養護老人ホームあんのん館・福釜」2か所の福祉施設を見学し、見識を深める目的で視察研修会を実施しました。部会は新任と2期目の委員が7割以上の構成ですので、今後の民生・児童委員活動に必ず役立てていきたいと思っています。



「聞く事共感」

障害福祉部会 杉浦 良夫

まずは障害者施設の訪問です。施設を訪れ、障害者の方々と交流を深めることで彼らの生活を理解し、適切なサポートを把握しています。また、施設内のイベントに携わっており、彼らが楽しい時間を過ごせるように尽力しています。その中でもコミュニケーションを重視し、聞く力を高めることで安心感を与えたいと思っています。そして、障害者の方々は日々様々な課題や悩みを抱えていますので、その声に耳を傾けて真摯に受け止め理解しようと努めています。また、障害者の対応に関する講師を呼び研修会を行い、地域の人々に情報や知識の提供をしています。私たちの活動は、障害者の方々の幸せと自立を支える一翼を担えればと思っています。これからも多くの方々が社会で自信を持ち、笑顔で過ごせるように努力し続けます。



「気づき、声をかけ、寄り添うことから次の一歩へ」

児童福祉部会 都築 光男

児童福祉部会は、主任児童委員部会と合同で、5月に刈谷児童相談センター職員を講師に「気づきからの児童の虐待防止」、9月に日本福祉大学の野尻紀恵先生を講師に「ヤングケアラー～SOSを見逃さないために」というテーマで日常活動に生かすように研修を行いました。

子どもの権利を侵害する虐待やヤングケアラーは家庭内で起きて見え難く、対応が難しいものです。虐待もヤングケアラーも、当事者の家庭・子どもだけの問題ではなく、教育や福祉、地域に関わるみんなで、ネットワークをつくり解決していく社会的課題であることがわかりました。

そして、私たち大人が、地域の子とも顔見知りになり声を掛け合うことが第1歩であり、声を掛け合うことで、子どものSOSに気づき、見逃さないことができると教えていただきました。



「主任児童委員部会の活動について」

主任児童委員部会 鈴木 三喜男

主任児童委員部会では、主に小学校や公民館において竹やペットボトルなどを使用するおもちゃ作りを通して親子ふれあいの場を提供しています。実際におもちゃを作っている時だけでなく、家に帰った後の一家団らんの折、親子の会話が弾み、絆を深める一助になればという思いで、この活動を継続しています。

また、近年深刻な社会問題になっている児童虐待に主任児童委員としてどのように対応すべきか学ぶために、児童福祉部会と合同で研修会を開催しました。今までは新型コロナウイルス感染症の影響でふれあい活動と研修会の開催ができない状況でしたが、今後のために新たな活動の在り方を見出していくことが必要であると感じています。そして今後も、各地区担当の民生・児童委員の皆様や学校をはじめとする関係機関と密接に連携して、活動していきたいと思っています。



「全戸配布を念頭に！」

広報部会は1年ごとに活動内容の変わる他部会とは違って、任期中の3年間「民児協あんじょう」の編集発行を行っていきます。テレビCMで民生・児童委員の活動の一部が紹介され少しは知名度が上がったようにも思いますが、まだまだ活動内容が広く知られていないように思われます。年1回の発行ではありますが、数年前より「広報あんじょう」とともに全戸配布となりました。1人でも多くの方に民生・児童委員の活動に理解と協力が得られますよう、読みやすく、わかりやすい紙面をめざして3年間部員の皆様とともに努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

広報部会 杉浦 美紀代

